

びわこ成蹊スポーツ大学
学長 大河 正明
学部長 黒澤 毅

チャット GPT 等における生成 AI（人工知能）の利用について

近年の人工知能（生成 AI）技術の発展は、我々を取り巻く社会のあらゆる分野において様々な利活用の可能性があることが示唆され、今後ますます注目を浴びるものになります。しかしながら、こういった技術革新の中で新たな知見等が生み出されることが期待される一方で、情報漏洩や情報の正確性など、いくつかの問題点が指摘されているのも事実です。

スポーツを「する」、「みる」、「支える」、「知る」といった様々な視点から、スポーツの可能性を学び、研究を推進する使命を持つ大学教育機関として、下記のとおり学生・教職員が生成 AI（人工知能）を利活用する際の現時点における留意事項を示しました。同時に、スポーツ学を通じた大学での学びが、人間としての成長を促す機会を提供する場であるということを、学生一人ひとり、教職員の全ての者が共通理解した上で、今後も見直しと検討を重ねていきたいと考えています。

記

チャット GPT とは、「Generative Pre-trained Transformer」の略で大量のデータを学習して自然な応答をすることのできる技術です。学生や教職員が質問したり、情報を共有したりすることができます。しかしながら、これまでには課題も指摘されているため、以下の事項に十分に留意してください。

1. 情報の正確性：必ずしも正確な情報であるとは限りません。特に専門的な情報については、正確性を欠くことがあるため、確認が必要です。また、レポート・課題や研究等での使用は著作権の問題や不正な引用、盗用といった倫理的な問題となることがあります。
2. 個人情報（プライバシー）と安全性（セキュリティ）：入力した情報が流出・漏洩する可能性があるため注意が必要です。
3. 個人的ケースへの対応：一般的な質問へは基本的に対応しますが、個別のケースなどへの対応が限定的とされます。レポート・課題、研究等や複雑な問題、個人情報に関わる事項については注意が必要です。
4. その他：本学の成績評価は、ディプロマポリシーにある4つの観点である「興味・関心」、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「協働・学びに向かう力」で行うことから生成系 AI のみの使用によるレポート・課題等は評価の対象となりません。また、学生本人が作成したものではないことから、不正行為とみなし、本学規定に基づいた厳格な対応を行う場合があります。

以上